

令和6年度 水稻の生育情報 No.3

令和6年8月1日

農業経営課

1 気象概況

6月もやや高い気温推移で、7月の気温は特に高くなっています。

	<6月の平均気温>	<7月の平均気温>
岐阜市アメダス	23.9℃ (平年比+0.7℃)	29.1℃ (平年比+2.1℃)
恵那市アメダス	21.3℃ (平年比+0.5℃)	26.1℃ (平年比+1.4℃)
高山市アメダス	20.4℃ (平年比+0.7℃)	24.8℃ (平年比+1.3℃)

2 生育概況

表1－水稻の生育状況（岐阜県農業技術センター調 令和6年7月13日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
あきたこまち	5月10日	穂ばらみ期	草丈 (cm)	70.3	76.8	77.1
			茎数 (本/m ²)	420	288	360
			葉色 (GM)	33.8	43.9	46.2
			葉令	12.4	12.2	12.4
コシヒカリ	5月10日	幼穂形成期	草丈 (cm)	79.7	81.2	81.3
			茎数 (本/m ²)	470	320	408
			葉色 (GM)	35.5	39.4	38.6
			葉令	13.2	12.2	12.4
ハツシモ岐阜SL	5月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	70.7	72.4	69.5
			茎数 (本/m ²)	433	330	403
			葉色 (GM)	35.2	37.9	38.7
			葉令	13.5	12.4	13.0
ほしじるし	6月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	50.5	52.9	48.8
			茎数 (本/m ²)	461	266	371
			葉色 (GM)	38.4	40.9	42.7
			葉令	9.0	9.4	10.5
ハツシモ岐阜SL	6月10日	分けつ盛期	草丈 (cm)	44.4	51.5	48.1
			茎数 (本/m ²)	463	297	344
			葉色 (GM)	41.4	42.1	46.0
			葉令	9.2	9.9	11.0

表2－水稻の生育状況（岐阜県中山間農業研究所本所調 令和6年7月16日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
たかやまもち	5月16日	穂ばらみ期	草丈 (cm)	76.6	70.5	71.0
			茎数 (本/m ²)	455	503	497
			葉色 (GM)	42.7	41.0	44.2
			葉令	12.0	11.4	11.6
あきたこまち	5月16日	穂ばらみ期	草丈 (cm)	77.2	69.5	70.1
			茎数 (本/m ²)	484	484	471
			葉色 (GM)	41.9	41.5	44.1
			葉令	12.0	11.6	11.6
ひだほまれ	5月16日	穂ばらみ期	草丈 (cm)	87.8	73.2	74.7
			茎数 (本/m ²)	349	411	346
			葉色 (GM)	47.2	37.5	39.6
			葉令	12.6	11.6	11.8
ひとめぼれ	5月16日	幼穂形成期 ～穂ばらみ期	草丈 (cm)	73.1	69.1	70.9
			茎数 (本/m ²)	502	601	548
			葉色 (GM)	45.7	37.6	40.9
			葉令	12.4	11.1	11.2
コシヒカリ	5月16日	幼穂形成期 ～穂ばらみ期	草丈 (cm)	84.1	73.4	75.9
			茎数 (本/m ²)	440	585	484
			葉色 (GM)	45.3	37.5	40.8
			葉令	12.2	11.1	11.5

表3－水稻の生育状況（岐阜県中山間農業研究所中津川支所調 令和6年7月16日時点）

品 種	田植時期	生育ステージ	項 目	生 育 概 況		
				令和6年	平 年	前 年
あきたこまち	5月15日	幼穂形成期	草丈 (cm)	69.6	67.3	63.8
			茎数 (本/m ²)	373	390	429
			葉色 (GM)	31.4	35.2	32.1
			葉令	11.2	11.0	10.7
ココノエモチ	5月15日	幼穂形成期	草丈 (cm)	64.4	63.6	60.8
			茎数 (本/m ²)	402	406	468
			葉色 (GM)	29.9	32.0	32.9
			葉令	11.3	11.3	10.8
ひとめぼれ	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	71.0	69.9	65.7
			茎数 (本/m ²)	422	443	507
			葉色 (GM)	32.0	34.3	31.6
			葉令	11.0	10.9	10.5
コシヒカリ	5月15日	分けつ盛期	草丈 (cm)	77.2	72.0	72.5
			茎数 (本/m ²)	416	420	466
			葉色 (GM)	32.9	31.8	28.0
			葉令	10.4	10.9	10.8

3 栽培上の留意点

6月から7月の高温により、水稻の生育は平年並～早くなっている。8月も猛暑が予想されるため、今後は水管理やカメムシ防除、適期収穫を徹底し良質米を生産するよう努める。

(1) 水管理

穂ばらみ期～出穂開花期は「浅水」としておく。その後の登熟期は、「間断灌水」または田土が十分に水を含んだ「飽水管理」とし、収穫1週間前を目途に「落水」する。

① 浅水

穂ばらみ期～出穂・開花期は、最も水を必要とする時期となるため浅水としておく。この時期に田面が乾いてしまうと、登熟に悪影響を及ぼすので注意する。

② 間断灌水・飽水管理

水田の状態を見ながら湛水状態と落水状態を繰り返すことで、空気と水を供給しながら根の活力を保つ。少なくとも、田土が乾かないよう十分に水分を含ませておく。登熟期の水分不足は、玄米の肥大を妨げ胴割を多発させるため注意する。

③ 落水

収穫1週間前を目安として落水し、水田の土を硬くする事で稲刈作業をしやすくする。落水後に田土が乾く様であれば、「走り水」を行い、水分補給する。

表4－水稻の水管理の目安

生育ステージ	水管理	摘要
穂ばらみ期～出穂・開花期	浅水	
登熟期	間断灌水	飽水状態でも良い
収穫前	落水	場合によっては走り水を実施

※飽水状態とは、田土が十分に水分を含んだ状態をいう

(2) 穂肥の施用

穂肥は、幼穂形成期に肥料分を与える事で、稲体の栄養状態を良くし、籾数を確保したり登熟歩合を高める効果がある。高温下では登熟期に肥料不足となると、基部未熟など高温障害を助長するのでしっかりと施用する。また、高温により水稻の幼穂形成が早まる場合もあるので、幼穂長を確認し適期施用に努める。

なお、基肥一発肥料を作付時に施用している場合は、原則穂肥は不要とする。

表5－水稻の穂肥施用の目安

品 種	施用時期	施用時の幼穂長	施用時の葉色	施用窒素量
ハツシモ岐阜 S L	出穂18日前	0.5cm	3.5	3.2 kg/10a

※施用時の葉色は葉色板による数値

(3) 病虫害防除

6月～7月の梅雨により、山間地の一部では葉いもちが発生しており、今後穂いもちへの移行を抑えるよう出穂前後の防除を徹底する。

また、暖冬と春以降の高温によりカメムシ類が増えており、7月19日には岐阜県病虫害防除所から斑点米カメムシ類の注意報が発表された。出穂期～傾穂期における防除や各種

対策を励行し斑点米や不稔籾の発生を回避する。

① いもち病

気温 20～25℃、稲の水濡れ時間が 10 時間以上続くと発生しやすい。窒素肥料が過多で葉色が濃く、軟弱に育っていると多発する。特に、穂首や枝梗に発病するいもち病は「穂いもち」と呼ばれ、減収や品質低下に直結するため、出穂前の粒剤散布や出穂後の液剤散布により予防する。

② カメムシ類

梅雨明け後の気温上昇に伴い活動が活発化している。水稻の出穂前後に畦畔や雑草地から侵入するため、出穂 10 日前までに水田周辺の草刈りを済ませると共に粒剤や液剤により出穂前後から傾穂期にかけて防除を行う。なお、いもち病との混合剤もあるので同時防除も可能である。

(4) 適期収穫

適期に収穫した玄米にツヤがあり、整粒を多く含むため外観が美しい。早刈りすると青米が多く、籾水分も多いため乾燥作業に多くの時間と燃料が必要となる。逆に、遅刈りは玄米にツヤがなく、胴割米が増えるため品質が低下する。収穫時期により品質が大きく異なるため適期収穫により、良質な玄米に仕上げたい。

特に、高温下では登熟期間が短くなるため、刈遅れとなる事が多いので注意する。

【刈取時期の目安】

- ・ 帯緑籾割合が 10%前後
- ・ 籾水分 20～25%

積算温度だけでなく、稲穂の成熟具合や籾水分を見ながら収穫時期を決定する。なお、実際の作業にあたっては、収穫適期より早めに稲刈りを始め収穫適期に作業ピークが重なるよう日程調整を行う。

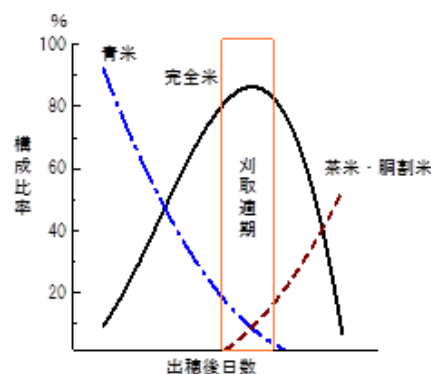


図 1—適期収穫と玄米品質

表 6—地帯別・品種別積算温度 [参考]

地帯	品 種	積算温度
平坦地帯	コシヒカリ、ハツシモ岐阜 SL (早植)、あきたこまち ひとめぼれ	950℃
	あさひの夢 (普通植)	1,020℃
	ハツシモ岐阜 SL (普通植)	1,050℃
中山間地帯	コシヒカリ、あきたこまち、ココノエモチ	950℃
	ひとめぼれ	990℃
山間高冷地帯	コシヒカリ、はなの舞、あきたこまち、ひとめぼれ	950℃
	ひだほまれ	900℃
	たかやまもち	950℃

※積算温度は出穂した日からの平均気温の合計 (出穂当日を含む)

<水稲の高温障害について>

前号（水稲生育情報 No. 2）において、令和6年稲作で取り組むことができる栽培管理技術について記載した。

7月18日に名古屋地方気象台が発表した、1か月予報によると向こう1か月の平均気温は高い確率が80%とされており、引続き稲作において高温障害の対策を講ずる必要がある。

高温障害対策の一つとして暑さに強い品種の選択があるため、今回は耐暑性品種について記載する。

本県での耐暑性品種の作付は、県育成品種「清流のめぐみ」や農研機構中日本農業研究センター育成品種「にじのきらめき」などが挙げられる。両品種とも共通して止葉が稲穂を隠す様な草姿をしている。これにより止葉が、日傘の役割を果たすため稲穂の温度上昇を抑え高温登熟を良好にしているものと考えられる。また、成熟期に近づいても茎葉の枯れ上がりが遅く、刈取り間際まで青々としている。

品種	来歴	面積	草姿・特徴	栽培上の留意点
清流のめぐみ	てんたかく（耐暑性） × 岐系125号（縞葉枯病抵抗性）	32 ha	○コシヒカリ並の出穂期及び成熟期 ○葉色が淡く推移する ○稈長はコシヒカリ並だが茎が太いため、倒伏しにくい ○穂発芽性は「難」、耐冷性は「やや強」 ○玄米の大きさはコシヒカリ並	○施肥量はコシヒカリより増やす ○幼穂形成期に肥切れさせない ○いもち病に罹病性があるため、常発地で作付けする場合は、体系防除に努める
にじのきらめき	西南136号（耐暑性） 現：なつほのか × 北陸223号（縞葉枯病抵抗性）	420 ha	○コシヒカリ並の出穂期及び成熟期 ○遅れ穂が多い ○稈長が短いため、倒伏しにくい ○穂発芽性「難」、耐冷性は「弱」 ○葉いもちは「中」、穂いもちは「やや強」 ○玄米が大粒 千粒重が24g前後	○施肥量はコシヒカリより増やす ○6月上旬までに植付ける ○紋枯病を防除する（高温年は特に注意） ○幼穂形成期に肥切れさせない ○コシヒカリより登熟期間が長い （出穂後積算温度1,000～1,100℃）



【清流のめぐみ草姿】



【コシヒカリ草姿】